

日本ロールシャッハ学会第24回大会ご案内

日本ロールシャッハ学会第24回大会を2020年11月14日(土)から15日(日)の2日間、はじめて岐阜の地にて、開催させていただくこととなりました。岐阜とはいっても高山です。ご承知のように高山は、江戸時代の天領であり、独自の文化を醸成させてきた土地柄で、海外からの観光客も多い地(ミシュランで☆☆☆)です。遠方ではありませんが、学術的交流とともに是非、高山の空気を感じていただければと思います。

大会テーマは《日常と非日常の交点を見る》といたしました。事例が複雑化している今日、あらためて、健康・適応と不健康・不適応の境界をどう考えるのか、「ふつうではない」とはどういうことか、といったアセスメントの原点に立ち戻って、みなさんと学ぶ機会を得たいとの理由によります。そのような主旨から、特別講演では、現象学者の村上靖彦先生に『現象学的な質的研究の現在』というタイトルでご登壇いただきます。氏は、医療現場に分け入って哲学する希有な存在です。質的研究は事例研究とも親和性が高く、そもそも我々は、スコアのみから対象を理解するのではなく、関係性やその場の状況も踏まえてアセスメントを行っているわけですから、そうした現象を捉えていく作業に関して、ヒントが得られるのではないかと思います。

併せて、シンポジウムでは大会テーマに即して、“ロールシャッハ法にみる『適応』再考”というテーマで、比較的若手・中堅の方にシンポジストをお願いいたしました。フロアのみなさまとともに活発な討論がなされることを期待しています。加えて、今大会では時間の都合上、ワークショップを用意しておりませんが、以下のような4つの若手向けミニレクチャーを用意しております。: ロールシャッハ, TAT, バウムテスト, HTP なお、研究発表は、口頭発表とポスター発表が選択可能です。

さて、本稿執筆時に、政府から出されていた非常事態宣言は岐阜県では解除されましたが、COVID-19の影響が今後どのように推移するのかまったく先の読めない状況です。ある意味では、「日常と非日常の交点を見ざるを得ない生活を余儀なくされておりますが、みなさまにおかれましてはどうぞ健康にご留意いただき、晴れて高山の地にお越しいただけるようお願いしております。現時点では、我々準備委員会一同、大会開催に向けて鋭意努力を重ねているところではありますが、今回はこのような特殊な状況下で準備をせざるを得ないことをご理解いただき、大会開催についての変更があり得ること、それらの情報は随時大会HPにてお知らせする旨、併せてご承知おき願えれば幸いです。

第24回大会 大会長 伊藤宗親

I. 大会の概要

会 期 : 2020年11月14日(土)・15日(日)

会 場 : 高山市民文化会館

〒506-0053 高山市昭和町1-188-1 <http://www.takayama-bunka.org/newpage/kaikan/>

大会内容 : 研究発表, 特別講演, シンポジウム, ミニレクチャー, 理事会, 総会, 懇親会

II. 大会日程

第1日目 11月14日(土)

| | | | | | |
|-------------|-------|-----------------------|-----------------|-----------------------|-------------|
| 12:40~14:00 | 13:30 | 14:00~15:30 | 15:30~16:50 | 16:50~18:10 | 18:30~20:00 |
| 旧理事会 | 受付 | ポスター①/研究発表① /事例発表① | 新理事会 ミニレクチャー | ポスター②/研究発表② /事例発表② | 懇親会 |

第2日目 11月15日(日)

| | | | | |
|------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 9:30 | 10:00~11:30 | 11:30~13:00 | 13:00~13:40 | 14:00~17:00 |
| 受付 | 特別講演 | 昼休み | 総会 | シンポジウム |

Ⅲ. プログラムの概要

(1) ミニレクチャー 11月14日(土) 15:30~16:50

以下のタイトルと講師陣によるミニレクチャーを開催いたします。当日の先着順受付ですので、余裕をもって会場へお越し下さい。

A. 「古くて新しいロールシャッハ法の基礎研究」

講師：岩佐和典(就実大学) 定員：20名(予定)

ロールシャッハ法の基礎研究とは何か。ロールシャッハ法は査定器具であり臨床的方法なので、臨床事例と対照可能な反応リストとか、器具・方法としての性質とか、そういった「ロールシャッハ法そのもの」に関する研究が真っ先に思い浮かぶかもしれない。一方で、ロールシャッハ法の目的は、概して、対象となる人間を理解することだから、我々の持つ人間観とか、人間に関する科学的知識なんかも、参照可能な枠組みとして有用だろう。そうした諸々の知見をどこに求めるか考えるとき、その出処を「ロールシャッハ法そのもの」の研究に限定する道理は無い。ロールシャッハ法が人間の理解を目指すのならば、むしろその基礎研究は「人間そのもの」の研究を内含する必要があるのではないか。さらに、そうした研究によって拡張された人間理解の枠組みを、どのようにしてロールシャッハ法に実装すれば良いのか。……といった、ロールシャッハ法の基礎研究にまつわる問いについて、主に心理学の立場から考えます。

B. 「現代のS-HTPにおける描画特徴-対象者の社会性に着目して-」

講師：瀬瀬千晶(東海学院大学) 定員：20名(予定)

S-HTPは1枚の紙に、家と木と人を課題として、他をどのように描くかは対象者の自由に任せる描画法です。実施は簡便で対象者の負担は少ないですが、自己イメージ、不安や抑うつ傾向、心の健康性など得られる情報量が多いという利点があります。

今回は受講者自身にS-HTPを体験いただいてから、実施方法、絵の分析と解釈、および対象者へのフィードバックまでを紹介します。

S-HTPは精神医療領域で、ロールシャッハ法の実施が難しい精神障害者に代替として用いられ、理論よりも実践研究の蓄積によって発展しました。そのため、体系的な解釈仮説や描画指標が十分でないという側面もありますが、本レクチャーでは、瀬瀬(2014)の描画指標「異質表現カテゴリー」による客観的な絵の評定についての解説と、対象者の社会性に着目した考察を行います。

C. 「バウムテストの足もとを見なおす~その1枚のバウムのための実験・発達・歴史という視点~」

講師：佐渡忠洋(常葉大学) 定員：30名(予定)

バウムテスト、それは日本でもっとも活用頻度の高く、どの領域にも開かれた技法。医療ではサイコロジストが経営に貢献できる貴重なツールの1つ。なによりバウムは、描き手の「何らかの」姿をときに厳かに・vividに・暗示的に、ときに簡素に顕現せしめる。おおくの先生方が、その「一本の木」をできるかぎり理解し、臨床に活かそうとされている。

今回話者となった私自身もそうありたいと考えている。本レクチャーでは、「実験・発達・歴史」の資料を使いながら、バウムを味わうわれわれの視点それ自体の見なおしを試みたい——したがって「AならBだ」という解釈法ではない。お話しする内容は私の拙い歩み(研究と臨床)の露呈になるかもしれないが、ただし内実は、常にそれぞれが思い浮かべる1枚のバウム理解を刺激するものとした。イメージを共有して話を進めるために、関係するバウムは時間の許すかぎり多く提示する予定である。

D. 「TATを取り入れた臨床判断の実際-TATの分析・解釈の理論から臨床への適用まで-」

講師：土屋マチ(山梨英和大学) 定員：20名(予定)

TATプロトコルは、各図版刺激に対する連想であり、20枚の図版に対する反応は、Christopher Bollas(2002)的に言うならば、被検査者の思考の連鎖(trains of thought)のプロセスである。そこにはその被検査者の欲望、欲求、記憶、情緒的生活に起因するものなどが反映されていると考えられ、TAT図版から何を連想するかという、思考の繋がりとして捉えられる。私はこのような基本的な立場から、TATプロトコルを分析・解釈している。具体的には、分析・解釈は12の分析視点、解釈・構造化については8つの視点から行っている。

ミニレクチャー当日は、実際の臨床事例のTATプロトコルの分析・解釈を通してRorschach法とは異なるTATで感じ取られる心の世界を、皆さんと一緒に考えてみたいと思っています。

(2) 研究発表

11月14日(土) ①14:00~15:30 ②16:50~18:10

1. 一般研究発表は、口頭発表(30分)およびポスター発表とします。
2. 事例研究発表は、口頭発表(80分もしくは90分)とします。
3. 研究発表希望者は、連名発表者を含め、本学会会員であり会費の未納がないことを条件といたします。未入会の方は、日本ロールシャッハ学会事務局(本案内末尾に記載)へ連絡し、2020年6月末日までに入会手続きを行ってください。
4. 研究発表希望者は、大会HPの申込入力フォームより必要事項を2020年8月3日までに入力してください。
5. 今回は、研究発表の申込と同時に抄録原稿をご提出ください。
6. 発表日時、ポスター在席責任時間は確定次第、適宜、発表者にご連絡いたします。なお、発表申込件数に応じて発表種別や時間の調整をお願いする場合がございますのでご了承ください。
7. 発表機材としてPCをご使用になる場合は、各自でご持参ください。プロジェクターは準備いたします。

(3) 特別講演 11月15日(日) 10:00~11:30

演題:「現象学的な質的研究の現在」

講演者:村上靖彦(大阪大学)

司会:内田裕之(東海学院大学)

<講演概要>

現象学は古くはアルフレッド・シュッツが社会学の方法論として使い始めたのを嚆矢として経験科学における方法論として使われてきた。とりわけ教育学などでの質的研究の方法論としてアマデオ・ジオルジが整理して以降、一般的なものになった。日本では2000年代に入って西村ユミの『語りかける身体』(2001/2018)をきっかけとして、まず看護の世界でそして今では広い分野の質的研究の方法論として現象学が用いられるようになってきた。西村によって現象学を用いた研究は方法論として大きく姿を変えた。フッサールなど過去の学者の概念を表面的に用いることを「現象学」と呼ぶのではなく、研究を遂行する姿勢において真に現象学的になったのである。

私自身は2003年から(西村の仕事は知らずに)小児科での自閉症の研究を行ったあと、2011年より西村の影響を受けて看護師の聞き取りを始めるとともに、この方法論について考え始めた。

今回は、私自身が行ってきたいいくつかの研究(とりわけ看護師の実践の研究と、貧困地区の子育て支援の研究)を例に取り、データに対して内在的に分析することと語られた実践が背景に抱える構造を描き出すことという2点について、方法論上の要点を示していきたい。

(4) シンポジウム 11月15日(日) 14:00~17:00

テーマ:「ロールシャッハ法にみる『適応』-再考-」

シンポジスト:大矢寿美子(金沢工業大学) 袴田雅大(きまたクリニック) 明翫光宜(中京大学)

指定討論:小川俊樹(本学会長, 放送大学)

司会:服部信太郎(公益社団法人岐阜病院) 人見健太郎(みとカウンセリングルームどんぐり)

<企画趣旨>

ロールシャッハの学習を始めた初心者の場合、まずクライアントを査定する際に、F+%、P反応、MやFCの数などサインアプローチからクライアントの状態像をつかもうとする。そして、たいていは形体水準の低さやP反応の乏しさなどのように、クライアントの「適応がよくない」というネガティブな面を見ることから学習が始まる。

こうしたサインアプローチの時期を経て、自分なりにテストの結果と臨床像との対応・照合を模索するようになると、あらためて「適応」という問題を掘り下げて考えていく段階がやがて訪れる。どのような反応を示すようになると問題ある状態から改善・回復したと言えるのか、またテスト上の特徴をふまえてどう関わることがクライアントの援助につながるのか、さまざまな情報を駆使してクライアントの適応の問題をよりていねいに考えるようになっていくことが期待される。

ところで、そもそも適応とは何か?たとえば、院内適応という言葉があるように、ある程度、安定した状態を指すこともあれば、社会適応という広い視点でとらえることもある。とくに、ロールシャッハテストを通して「適

応（の可能性をみる）」とはどういうことなのか？この問題は十分に検討に値するが、あまり議論の対象となることはない。

ロールシャッハ上には健全な面も病的な面も映し出されるのだが、とかく病的な面がクローズアップされがちで、従来より健全な面にも目を向けることが重要であると言われてきている。今回のシンポジウムでは、この問題に改めて焦点をあててみたい。

そこで今回は経験豊かなロールシャッハワーカーをシンポジストに迎え、適応の問題を再検討してみたい。フロアからの活発な意見や質疑応答を期待する。

(5) 理事会 11月14日（土）

（旧理事会）12：40～14：00 （新理事会）15：30～16：50

(6) 総会 11月15日（日）13：00～13：40

(7) 懇親会 11月14日（土）18：30～20：00

会場：ひだホテルプラザ

*皆様のご参加を心よりお待ちしております。会場の関係上、できるだけご予約をお願いいたします。

IV. 大会諸費用

| 大会参加費 | | 事前参加登録 | 当日参加登録 |
|-------|----------|---------|---------|
| 大会参加費 | 本学会会員 | 7,000 円 | 8,000 円 |
| | 臨時会員（一般） | 8,000 円 | 9,000 円 |
| | 院生・学生 | 3,500 円 | 5,000 円 |
| 懇親会費 | 本学会会員 | 5,000 円 | 6,000 円 |
| | 臨時会員（一般） | 5,000 円 | 6,000 円 |
| | 院生・学生 | 4,000 円 | 5,000 円 |

* 昼食用のお弁当の販売はいたしません。会場周辺の飲食店等をご利用ください。

V. 大会参加（事前参加登録）の申し込み要領

1. 大会 HP より、申込入力フォームに必要事項をご入力の上、お申し込みください。

*2020年8月28日（金）締切

2. お申し込み時にご入力いただいたメールアドレス宛に自動返信メールが届きます。自動返信メールに記載のゆうちょ銀行振込口座へ大会諸費用をお振込みください。

*2020年9月4日（金）締切

入金確認は数日を要しますので余裕をもって手続きをお願いします。期日までにお振込がない場合は、当日参加扱いとなります。参加料金を学会当日に受付にてお支払いいただきます。なお、いったん納入された参加費は特別な事情がない限り返金いたしません。

※事前参加登録業務は株式会社コムラへ委託しております。

3. 臨時会員（一般）は、原則として保健・医療・福祉・司法等の領域で、心理アセスメント・心理療法などの実務経験を持つ方とさせていただきます。院生・学生の非会員の方はこの限りではありませんが、守秘義務の責任を負うことが条件です。なお、院生・学生の方は、学生証の提示が必要です。学生証の提示がない場合は、一般扱いとなります。

VI. 会場へのアクセス

■JR 高山駅西口（白山口）から徒歩3分

■JR をご利用の方

| | | | | |
|-------|-----------------|-----|---------------|---------|
| 東京方面 | 東京 | 富山 | 高山 | 約4時間 |
| | 北陸新幹線（約2時間10分） | | 高山本線（約1時間30分） | |
| | 東京 | 名古屋 | 高山 | 約4時間10分 |
| | 東海道新幹線（約1時間40分） | | 高山本線（約2時間20分） | |
| 名古屋方面 | | 名古屋 | 高山 | 約2時間20分 |
| | | | 高山本線（約2時間20分） | |
| 大阪方面 | 新大阪 | 名古屋 | 高山 | 約3時間20分 |
| | 東海道新幹線（50分） | | 高山本線（約2時間20分） | |

■高速バスをご利用の方

| | |
|-------|-------------------|
| 東京方面 | 新宿駅から約5時間30分 |
| 名古屋方面 | 名古屋駅から約2時間35分 |
| 大阪方面 | 大阪駅（東梅田）から約5時間20分 |

VII. 臨床心理士の研修ポイントについて

臨床心理士資格更新のための研修ポイントが取得できます。なお、ポイントは公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会の「臨床心理士教育・研修規定別項」に定められた通りです。

VIII. 今後の予定

随時大会 HP にて情報を更新します。

1. 発表申込期限（研究発表）……………2020年8月3日（月）
2. 抄録原稿の提出期限……………2020年8月3日（月）
3. 参加事前申込期限……………2020年8月28日（金）
4. 諸費用払い込み期限……………2020年9月4日（金）
5. プログラム・抄録集の発送……………2020年10月中旬

IX. 宿泊のご案内

本大会へ出席される皆様方のご便宜をお図りするため、宿泊のお世話を日本旅行名古屋法人営業支店にお願いすることにいたしました。宿泊につきましてはお早めに手配されますようご案内いたします。

詳細は大会 HP の「宿泊のご案内」をご覧ください。

X. 連絡先

（1）第24回大会に関する連絡先

日本ロールシャッハ学会第24回大会準備委員会（大会長：伊藤宗親）
〒501-1193 岐阜県岐阜市柳戸1-1 岐阜大学教育学部伊藤研究室
Email : takayamaror24@gmail.com

（2）学会事務（入会・住所変更・学会費納入などに関する連絡先）

日本ロールシャッハ学会事務局（財務担当）
〒582-0086 大阪府柏原市旭ヶ丘3丁目11番1号 関西福祉科学大学心理科学部小笠原研究室
Email : jimukyoku@jsrpm.jp
学会 HP : <http://jsrpm.jp/>